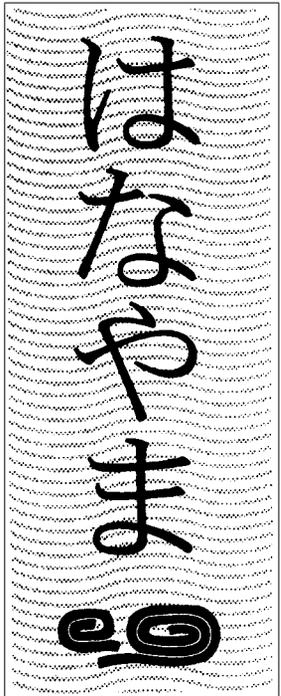


平成 22 年度

# 5月22日に総会

## 会場はメディアテーク7階



発行  
社団法人  
**宮城県芸術協会**  
(郵便番号 980-0803)  
仙台市青葉区国分町 3-3-7  
宮城県民会館内  
電話 (022) 261-7055  
FAX (022) 214-5184  
E-mail: miyagi-geikyo@sunny.ocn.ne.jp  
編集 小山喜三郎

### 一力河北新報社 社長が記念講演

五月二十二日の定期総会に先立ち午後一時三十分から河北新報社社長の一力雅彦氏による「文化と報道(仮題)」と題し約一時間の記念講演がある。

平成二十二年度の宮城県芸術協会通常総会が五月二十二日(土曜)午後二時三十分から仙台市青葉区のせんだいメディアテーク七階のスタジオシアターで開催される。主な議題は平成二十一年度の事業と決算の報告と二十一年度の事業計画案と予算案、二年ごとに改選される役員人事。総会前に河北新報社一力雅彦社長の記念講演がある。会員多数の出席が望まれるが、出席が無理な場合は委任状の提出をお願いしたい。

## 役員改選が主な議題

総会は議長を選出し、平成二十一年度の事業実績と収支決算を担当常任理事が報告、引き続き二十一年度の事業計画案と予算案を提案、採決に入る。今年度の総会で焦点となるのは役員人事。理事と評議員は二年ごとに改選されるが、その前に各部門と理事会から理事候補を推薦、理事選考委員会に諮り、その結果を

総会の承認を得て正式に理事に就任することになる。総会はいったん休憩、その間に新理事会を開き理事長、副理事長、常任理事の三役を互選し決めるのが一応の段取り。総会を再開し報告される。評議員は、理事会が推薦し理事長が委嘱することに定款で決まっており、次回の理事会で協議される。

事業計画案のトップは秋の第四十七回芸術祭。九月二十四日の絵画・華道・彫刻展を幕開けに十月三十日の文芸祭までがメインとなり、その間に文学散歩、茶会、長唄演奏会、音楽会の開催。文芸年鑑の発行も例年通り予定されている。

巡回展の写真展は蔵王展、大和展、絵画・書道展は東松

島展が企画されている。

国際交流は仙台・大邱交流書道・工芸展が大邱文化芸術会館で開催が予定されている。日程は、八月十六日から二十二日までと決まった。

海外研修旅行は十一月二十一日から二十六日までの五泊六日でタイのバンコク、チェンマイ、チェンライを企画しているが、募集人員や参加費などの詳細は次号でお知らせする予定。久しぶりに中国から離れるようである。

### 公益社団法人検討 委員会について

懸案の公益社団法人化を検討する委員会は平成二十一年九月七日の理事会で委員七人を決め審議を重ねてきたが、さらに審議を迅速に進めるため三月十三日の理事会で委員三人を加え、合わせて九人の委員で構成、四月の新年度から審議を進めることにした。委員は次の通り。

小山喜三郎、田村政晴、大場尚文、朴澤一草、中塚仁、高橋成仙(新任)、高橋通子、早坂貞彦、雫石隆子

# 大邱で書道・工芸展

## 〔日 韓 国 際 交 流〕 〔8月16日～20日〕

### 杜の都大茶会

5月29～30日  
勾当台公園で

第十五回杜の都大茶会は、「茶会へのいざない」と銘うち五月二十九日(土)と三十日(日)に開催される。仙台市勾当台公園を会場に七つの茶席が設けられる。共催は河北新報社。

茶券は前売りが千円、当日券は千二百円。流派ごとの茶席日程は次の通り。

5月29日＝煎茶文雅静庵流、石州清水流、玉川遠州流、江戸千家、武者小路千家、煎茶道三彩流、裏千家

5月30日＝煎茶道清泉幽茗流、遠州流茶道、大日本茶道学会、織田流煎茶道、宗徧流、表千家

### 絵画スケッチ研修会

岩手山・東八幡平山麓

絵画部恒例のスケッチ研修会「岩手山・東八幡平山麓ぐるっと散策」は、五月十五日(土)十六日(日)に実施する。

募集人員は四十人だが、絵画部員だけでなく芸協会員ならだれでも参加できる。多数の参加を期待している。

参加費用は二万五千円。申し込みは芸協事務局 022

(261) 7055 まで。定員に達した時は締め切ることもある。

日程とコースは次の通り。

5月15日(土) 8:20 仙台駅西口バスプール発ー東北自動車道ー松尾八幡平ICー山頂付近にてスケッチー昼食ー八幡平樹海ラインー県民の森ー八幡平ロイヤルホテル泊

5月16日(日) 9:00 ホテルーAコース(スケッチ制作)ーBコース(バス移動しながら山麓スケッチ)ーホテル昼食ー鑑賞会ー松尾八幡平物産館ー松尾八幡平ICー東北自動車道ー仙台宮城ICー仙台駅西口17:50着

### 会員名簿を発行

記載事項辞退の方  
方は申し出を

歌の全体合唱。合唱編曲と指揮は丸森町出身の八島秀氏。八島氏は「あれ流れの」を作曲され今回が初演となる。フィナーレは農協十五周年記念映画主題曲「わがふるさと」と文部省唱歌「ふるさと」が高らかに歌われる。

### ミュージックフェスタ2010

ふるさと  
「輝け角田のいのち」

6月27日、市民センターで

みやぎミュージックフェスタ 2010 in かくだが「つな

なぐれ音のきずな 輝け角田のいのち」と題し、六月二十

七日(日)午後一時三十分から角田市市民センター大ホール

で開催される。三部構成で演奏時間は約二時間半の予定。第一部は市内で活動する合唱団体と演奏家の発表。

コンクール最優秀賞の小学六年生菅野愛梨さんのピアノ

独奏をオーブニングに平間翔子さんのフルート、月輪まり子氏のアイリッシュハーブソ

口。さくらんぼ子ども合唱団などの合唱がつづく。

第二部は主に芸術協会会員による演奏と市内演奏家のコラボ。門脇磨美子氏のピアノ、渡部ジュディス氏と湯村やす子氏のデュエット、鶴岡たみ子氏のマリimba演奏など盛りだくさん。

第三部は角田から生まれた

隔年ごとに発行されている宮城県芸術協会の「会員名簿平成二十二年度版」は六月三十日付で発行される。前回、プライバシー保護などで名簿作成に当たって事務局では住所や電話番号の掲載辞退を希望する人は申し出るようお知らせしたところ若干の会員から連絡があった。空欄はその結果とご了承いただきませ

す。このような事情を考慮し活用されるよう願っています。なお記載事項の変更がある方は五月末日までに事務局 電話(261) 7055 までご連絡ください。

日韓国際交流の仙台・大邱交流書道・工芸展が八月十六日(月)から八月二十日(金)の日程で大邱市で開催の予定。平成六年度から芸協と、韓国芸術文化団体総連合会大邱広域市支会は、会場を隔年持ち回りに絵画・写真部門の作品展、茶会及び音楽会などを開催し、大きな成果をあげる

と共に、相互の交流を深め十五回目を迎える。

今回は書道部が初めての参加となり、韓国・大邱文化芸術会館の作品展に大きな期待がよせられている。

「樹氷」と題した長円の盤を十枚重ね合わせたような陶の作、「陸奥をふたわけさまに聳えたまふ蔵王の山の雲の中に立つ」と黒紙に白墨の書—それぞれに独立した作品ながら互いに呼応し新しい空間が迫りから独立している。「陶と書のコラボレーション」と題した作品展が三月十九日から二十四日までせんだいメ

## 「陶と書のコラボ」展

高倉さん 菊田さん 80歳を迎えて開催

ディアテークで開催された。陶芸家高倉健さん（芸協顧問）と書道家菊田翠谷さん（同参事）の、それぞれ二十点に参観者は立ち尽くしていた。この合同展はお二人が話し

に芸術協会の要職にあり、斯界の先達であり評価を得ている。八十歳を迎えるにあたっての新たなチャレンジに、会場を訪れた多くの人たちから感嘆の声が聞かれた。「八十は老の序の口寒牡丹」は俳優島田正吾の句で菊田さんの書と「搔落 寒牡丹」と題された高倉さんの陶作が、さらなる未来を物語っていたようだ。

## 県知事賞は菅原さんに

### 第30回ピアノコンクール

第三十回となった県芸術協会主催の音楽コンクール（ピアノ）の本選は三月二十九日（月）仙台市戦災復興記念館で行われた。二月二十一日の予選には百人が参加、三十五人が本選に進んだ。受賞者は次の通り。

〔初級〕最優秀賞Ⅱ菅原詩乃（仙台市立南村木町小一年）  
優秀賞Ⅱ松本和奏（仙台市立中山小二）  
太田莉菜子（仙台市立桜丘小三年）  
奨励賞Ⅱ千葉結莉乃（仙台市立袋原小四年）  
武藤 至（宮城教育大

学附属小四年）作曲者賞Ⅱ大森菜帆（石巻市立中津山第二小三年）

〔中級〕最優秀賞Ⅱ池田和音（仙台市立金剛沢小四年）  
優秀賞Ⅱ丹野晴日（仙台市立荒町小五年）  
奨励賞Ⅱ渡辺桃子（仙台市立片平丁小五年）  
庄子三未（大崎市立鹿島台小五年）  
作曲者賞Ⅱ池田和音（前述）  
安藤史織（仙台市立広瀬小六年）

〔上級〕優秀賞Ⅱ大久保帆夏（仙台市立広瀬小六年）  
奨励賞Ⅱ渡辺実希（名取市立不二が丘小六年）  
〔特別賞〕宮城県知事賞Ⅱ菅原詩乃（初級）  
仙台市長賞Ⅱ池田和音（中級）  
河北新報社賞Ⅱ丹野晴日（中級）

## 「草創期の10人」盛會裡に終了

入場者一六〇〇人超

芸協創立四十五周年記念行事の一環として「草創期の十人」展が一月十九日から二月二十八日まで仙台市青葉区五

橋のカメイ五橋ビルで開催されたが、会期中の入場者は千六百人を超し、盛会だった。入場者には高校生以下が約六十人と、次代を担う年齢層の参観者も目立ち、催しの趣旨が生かされたようである。

なお第二回の展示をカメイ社

会教育振興財団との共催で二月一日から三月十三日まで実施。「草創期の十人」展は、副題を「第一回宮城県芸術祭選抜美術展審査員」とあるように昭和三十九年に芸協創立の第一回芸術祭が開催された際の審査員十人の作品四十数点を展示した。四十五年も経て作品をそろえ、また搬入などで担当した方々には苦勞もあつたようである。

出品作家は（日本画）宇野松仙、莊司福、中村爽歩（洋画）菅野廉、佐藤多都夫、渋谷栄太郎、杉村惇、中原四十二、沼倉正見、狭間二郎と画壇では忘れられない人たち。二回展のメンバーにどの人が含まれるか、待ち遠しい。

## 角館や花巻方面へ

文学散歩 9月28、29日に実施

秋の第四十七回県芸術祭の中で文芸部は恒例の文学散歩を九月二十八日（火）と二十九日（水）の一泊二日で実施することになった。詳細はこれから決まるが、角館、横手、盛岡、花巻方面を予定している。

角館（仙北市）は歌人で画家の平福百穂の生地、また新潮社の創業者佐藤義亮の出身地であり、新潮社の出版物がまとめて収蔵されているはずである。角館は武家屋敷が連なり、小京都」として有名。

また横手には石坂洋次郎記念館、花巻に宮沢賢治記念館や光太郎山荘もあり、各地とも文学には縁が深い。芸協会員だけでなく一般市民も参加できるので、多数の参加が待たれる。参加費は三万円の予定。コースなど詳しくは次号で紹介する。申し込みは芸協事務局Ⅱ 022(261)7055まで。

## 新 入 会 員

部門	氏 名	住 所	電話番号
<b>【絵画部】</b>			
〈日本画〉	佐々木 智 朗	981-8003 仙台市泉区南光台四丁目18-34	234-2851
	中 邨 圭 子	981-8003 仙台市泉区南光台七丁目4-13	252-6745
	岩 渕 仁 子	982-0812 仙台市太白区上野山一丁目12-13	245-0561
	鈴 木 多恵子	982-0252 仙台市太白区茂庭台五丁目10-10	281-0015
	仲 野 うた代	981-1105 仙台市太白区西中田六丁目3-10-609	306-6183
〈洋 画〉	伊 藤 芳 子	981-1102 仙台市太白区袋原一丁目8-24	241-7643
	桜 井 竣 平 (史敏)	984-0046 仙台市若林区二軒茶屋13-23	090-2979-1325
	中 村 幸 司	982-0801 仙台市太白区八木山本町二丁目16-5	229-6183
	斎 藤 征 二	981-3212 仙台市泉区長命ヶ丘六丁目3-21	378-4349
	本 郷 貞 子	981-3117 仙台市泉区市名坂字町52	373-8139
	植 田 和 子	984-0823 仙台市若林区遠見塚二丁目18-54	286-9230
	菅 原 さち子	981-3223 仙台市泉区住吉台西四丁目11-2	379-6139
	菊 地 俊 秋	981-1505 角田市角田字裏町55-10	0224-63-1004
	藤 澤 土 筆 (定幸)	981-3109 仙台市泉区鶴が丘二丁目16-4	375-5243
<b>【工芸部】</b>			
〈陶 芸〉	佐 藤 英 子	981-8001 仙台市泉区南光台東一丁目10-3	251-4513
	大 江 文 彦	981-0961 仙台市青葉区桜ヶ丘一丁目34-25	279-9436
〈染 織〉	大 沼 みち子	983-0821 仙台市宮城野区岩切字大前90-25	385-5587
	太 田 三佐子	982-0802 仙台市太白区八木山東二丁目14-3	244-6259
【書道部】	金 濱 珀 燁 (祐子)	981-3112 仙台市泉区八乙女二丁目1-417	218-3611
	尾 形 澄 神 (崇)	981-0954 仙台市青葉区川平五丁目8-2	279-3133
	乙 坂 博 道	981-3214 仙台市泉区館二丁目5-1	376-2493
	大 庭 幸 石 (さちゑ)	989-6162 大崎市古川駅前大通二丁目1-11	0229-23-0803
	小 野 和 子	981-3204 仙台市泉区寺岡一丁目13-24	378-2047
東 真知子	259-1331 秦野市堀西484-16	0463-87-6170	
<b>【華道部】</b>			
〈池 坊〉	玉 上 優 芳 (優子)	983-0838 仙台市宮城野区二の森9-11	291-9820
	佐 藤 笙 風 (典恵)	981-3622 黒川郡大和町もみじヶ丘二丁目35-1	348-6061
	工 藤 尚 華 (知子)	981-3203 仙台市泉区高森四丁目2-375	378-0379
〈古流松應会〉	渡 邊 理 和 (和江)	987-0003 遠田郡美里町南小牛田字山の神81-4	0229-33-2153
〈清泉古流〉	葉 山 一 道 (道子)	983-0841 仙台市宮城野区原町三丁目1-18	256-0887
〈草月流〉	佐 藤 守 人 (守)	982-0006 仙台市太白区東郡山二丁目16-57	304-5620
〈本源遠州流〉	八重嶋 一 潤 (潤子)	982-0847 仙台市太白区長嶺17-1	248-9451
	小野寺 一 礼 (礼子)	985-0853 多賀城市高橋三丁目2-42	368-9477
	尾 形 一 典 (典子)	981-3214 仙台市泉区館三丁目6-11	376-7454
<b>【音楽部】</b>			
〈洋 楽〉	星 亜紀子	983-0824 仙台市宮城野区鶴ヶ谷一丁目28-15	251-9978
	小 熊 由里子	981-0952 仙台市青葉区中山三丁目14-41	278-9410
〈長 唄〉	杵家 弥七佳綏 (浅野徳子)	981-3121 仙台市泉区上谷刈四丁目2-17	773-1660
	杵家 七可詩緒 (佐々木詩緒)	134-0088 江戸川区西葛西二丁目15-20-904	03-3878-9019
<b>【文芸部】</b>			
〈短 歌〉	西 村 真 一	981-0922 仙台市青葉区鷺ヶ森二丁目12-41	352-7905
	金 澤 孝 一	982-0812 仙台市太白区上野山一丁目13-20	244-0136
〈俳 句〉	日 下 節 子	989-1241 柴田郡大河原町字町53-1	0224-52-1140
	関 根 か な (杉山佳奈子)	981-0966 仙台市青葉区荒巻本沢一丁目15-3	080-6009-7284
	松 本 眞 澄	983-0824 仙台市宮城野区鶴ヶ谷一丁目36-11	253-3445
	小 林 里 子	981-3361 黒川郡富谷町あけの平三丁目38-1	358-2785

# 東北・北海道交流 短詩型文芸・色紙展

## 6月1日 ～6日 札幌市で開催

### 「北斗」34号を発行 特集、洋楽の現況

### 事務局は北海道へ

事務局が担当した『北斗』三十四号が二月二十八日発行された。表紙の題字「北斗」は書道部理事の中塚仁氏。写真「北の怒濤」は写真部理事の佐々木光一氏。内容は巻頭言「温故知新」を芸術協合理事長小山喜三郎氏が執筆。特集は「わが県道の音楽(洋楽)の現況」。(宮城分は音楽部理事の太田ゆり子氏が寄稿)写真入りで三十二ページの丁寧な編集。このように記録性に富んだ編集に注目した。

### 会費納入のお願い

当芸術協会が二年間事務局を担当していた東北・北海道芸術文化団体協議会が、北海道文化団体協議会に移行し、事務局も札幌市に移転した。新年度を迎えました。平成二十二年度会費は同封の郵便振替で五月三十一日までに納入くださいますようお願いいたします。

なお、自動払込の手続きをされている会員は指定の口座から四月三十日の引き落としとなります。お手配をお願いいたします。

自動払込は多くの会員から申し込みをいただいておりますが、前述の郵便振替によるご納入の方々にもご協力をお願いいたします。

「東北・北海道交流短詩型文芸・色紙展」が、六月一日から六日まで札幌市資料館で開催される。総会は六月二日。当会からは十五組の出品を予定している。現在絵画部の役員を中心に美術作品を制作中で、その後文芸部(短歌・俳句・川柳)の各役員がコラボレーションを試み出品することとなる。

### 運営委員を委嘱

各部で開催された運営委員会です。運営委員の委嘱があった。

(絵画部) (日本画) 奥山和子、安藤瑠吏子、宮澤早苗、毛利洋子、及川聡子 (洋画)

佐藤寿美子、相澤一夫、佐々木和江、常山俊明、三浦一博、森敏美、佐々木寿美、丹野三夫 (工芸部) (染織) 平澤富子 (書道部) 狩野翠桂、松木梅香 (音楽部) (洋楽) 渡邊美穂 (茶道部) (織田流) 朝

比奈南樹 (玉川遠州流) 石山晋垂 (文雅静庵流) 石垣静月 また、(音楽部) (洋楽) 三塚典子 (茶道部) (織田流) 芥川南祥 (玉川遠州流) 鈴木晋光 (文雅静庵流) 相原静恵の各氏は辞任した。

## 新 入 会 員

部門	氏名	住 所	電話番号
	高 瀬 恭 子	982-0027 仙台市太白区大罫町11-93	228-0014
	菊 池 ゆう子	980-0003 仙台市青葉区小田原五丁目2-12 小田原パークマンション403	261-8370
	今 野 紀美子	985-0061 塩釜市清水沢三丁目15-6	364-2656
	渡 辺 登美子	986-0854 石巻市大街道北四丁目7-62	0225-96-9627
	山 崎 真 中 (忠亮)	989-0274 白石市字長町34-1	090-9534-5689
(川 柳)	岩 渕 た か	981-0911 仙台市青葉区台原一丁目5-12	233-2051
	渡 辺 進	981-8003 仙台市泉区南光台二丁目10-62	272-4510
	佐 藤 点 加 (徳定)	981-8003 仙台市泉区南光台五丁目3-13	233-7343
(小 説)	江 田 律	981-0963 仙台市青葉区あけぼの町6-1	234-0882
【茶道部】			
(裏千家)	大 沼 宗 律 (律子)	981-0933 仙台市青葉区柏木三丁目8-29	272-3749
(石州清水流)	白 木 萌 斎 (秀子)	981-3352 黒川郡富谷町富ヶ丘三丁目7-13	358-3838
(宗徧流)	日 下 宗 恵 (恵美)	984-0056 仙台市若林区成田町55	299-7755
	大 嶋 宗 奏 (かなえ)	983-0005 仙台市宮城野区福室六丁目16-68	258-8402
【写真部】			
	中 村 輝 一	989-3205 仙台市青葉区吉成三丁目18-25	278-5355
	北 村 卓 雄	981-0961 仙台市青葉区桜ヶ丘二丁目2-3	279-8574
	庄 司 喜	983-0841 仙台市宮城野区原町一丁目1-76	295-7327

事務局 日誌

会務報告

3・8 評議員会

○公益社団法人等検討委員会の報告について

○平成22年度の事業計画(案)及び取支予算(案)について

3・13 理事会

○公益社団法人等検討委員会委員について

○平成22年度の事業計画(案)及び取支予算(案)について

○理事候補者について

○評議員候補者について

○監事候補者について

○理事選出選考委員委嘱について

○新入会員(正会員)の承認について

○会員の除名について

後援

☆第32回恵風書展

1月29日～2月3日

せんだいメディアアテーク

☆陶と書のコラボレーション

―陶・高倉健 書・菊田翠谷―

3月19日～3月24日

せんだいメディアアテーク

☆みやぎ日洋会第6回展

3月26日～3月31日

せんだいメディアアテーク

☆第22回いずみ絵画協会展

4月23日～4月28日

せんだいメディアアテーク  
☆第60回モダンアート協会展  
4月23日～4月28日

せんだいメディアアテーク  
☆2010みやぎの書60人展  
4月30日～5月5日

せんだいメディアアテーク  
☆調・花・彩  
5月3日～5月4日

☆仙台市戦災復興記念館  
仙台市戦災復興記念館  
☆けやき並木路展<sup>10</sup>  
5月7日～5月12日

☆蓮紅社書展  
5月14日～5月16日

☆生田流筆曲演奏会  
5月22日

☆電力ホール  
5月25日～5月30日

☆東松島市ひと・まち交流館  
5月28日～6月2日

☆仙台大&宮教大マンドリンコンサート in 2010  
5月29日

☆仙台市戦災復興記念館  
仙台市戦災復興記念館  
☆絵画特別展「静物による空間の表現 渡辺雄彦展」  
6月1日～8月1日

☆カメイ記念展示館  
カメイ記念展示館  
☆林昌子(杵家七可)三回忌追善「邦楽演奏会」

6月6日  
仙台市民会館  
☆第37回仙台女流美術協会  
6月11日～6月16日

せんだいメディアアテーク  
☆新藤典子・鶴岡たみ子ジョイント・コンサート  
7月7日

☆仙台市戦災復興記念館  
仙台市戦災復興記念館  
7月18日

「宮城の現代詩2009」(宮城県詩人会)  
「合同歌集山花茶第5集」(山茶花短歌会) 歌集「山鳩のこゑ」(新沼せつ子)「仙台市民柳柳会合同句集」(あきた・じゅん)

詩集「ことばの翼」(渡辺仁子) 歌集「太白桜」(奥山勝子) 歌集「夕風橋」(外石トミイ)

受贈書

「宮城の現代詩2009」(宮城県詩人会)

「合同歌集山花茶第5集」(山茶花短歌会) 歌集「山鳩のこゑ」(新沼せつ子)「仙台市民柳柳会合同句集」(あきた・じゅん)

詩集「ことばの翼」(渡辺仁子) 歌集「太白桜」(奥山勝子) 歌集「夕風橋」(外石トミイ)

「絵画」(日本画) 佐藤寛(洋画) 小山照子、小松実(彫刻) 星真子

(工藝) (染織) 森田ヒサ子(木竹芸) 小竹孝、品川潤子(七宝)

小松陽子(書道) 鎌田青巖(彰郎) 四十院東虹(富美子)、酒本淑子、菊地清峰(正晃)、高橋恵美子(華道) (静月) 大友理慶(慶子) (本原遠州) 矢内一節(節)

退会会員

子)、鈴木一和(和子) (音楽) (洋楽) 及川麻里、玉野井美都子(長唄) 加藤園、杵家弥登八(小山昌子)、山本敏行(文芸) (短歌) 永澤榮子、石田いつ子、峯岸ふくえ、熊谷龍子(俳句) 半崎清子、塩川秀子(茶道) (表千家) 三木宗幸(幸子)、松永宗無(米子) (三彩流) 村木雅陽(雅了子) (石州清水) 鈴木和斎(和子) (織田) 高瀬南文(文子) (大日本茶道学会) 佐藤芳仙(芳子) 穀田仙兆(京子) (玉川遠州) 樋口晋窓(すみ子) (武者小路千家) 阿部文子、庄司節子(写真) 京極弥一郎、佐藤浩視、やまだりょう、伊良原美登理

謹 弔

文芸部(俳句) 宮脇良子殿  
3月5日

茶道部(文雅静庵流)  
有川静峯殿  
3月21日

事務局長が交代

平成二十一年四月から事務局長の伊藤勝友氏は二十二年三月で退任され、後任に白鳥良一氏(元東北歴史博物館副館長)が就任された。前局長と同様に月・水・金曜の勤務で、非常勤となる。

けやきの譜

進学進級あるいは厳しい世相からの就職と、四月は喜びのシーズンである。また満六十歳で定年退職を迎え、第二の人生へ旅立つ月でもある。団塊の世代、以降の、まだ豊かとは言えない時代を生き抜いた人たち、その六十年という歳月は決して生易しい時代状況ではなかったはず。戦後復興の軌道もはっきりしない苦難の時代でもあった。親子ともども夢中で日々を送り昭和四十年代になってようやく豊かさを実感されたか、八十は老の序の口寒牡丹―新派俳優島田正吾の句に、思わず絶句した。高倉健さんと菊田翠谷さんの『陶と書のコラボレーション』会場(三月十九日～二十四日)は、三次元四次元の空気がみなぎり、新たな感動を喚起していた。お二人ともが芸術協会の先達とともに八十歳前後になられる。この展覧会を開催するまで四年を有したという。素晴らしい出逢いが芸協が縁だったかは知らないが、次なる出逢いに刮目したい。(純)